

## Merry Christmas



### 満天の星

12月、近所の畑でブロッコリーの収穫があった。面白いことに「収穫」は空気の匂いでわかる。ブロッコリーならブロッコリーの、キャベツであればキャベツの、収穫した切り口から立ち上る匂いが、畑から周辺にまで広がるから。切り取られて空っぽになった練馬のキャベツ畑の上には、北極星ポラリスやオリオン座の赤い星ベテルギウスが見えたりする。でも、町明かりがあるため、ちょっと見えにくい。両手で目の周りを覆って、じゃまな明かりを遮り、星を仰ぐ。そして思い出すのは、海や山や、旅行先で見た暗闇の中で仰ぎ見た空。なかでも海で寝転んで見る満天の星は最高だった。

もう東京には真っ暗闇はないけど、人がものごとを考える底辺には真っ暗闇が必要なんじゃないの、と思う。自然科学や哲学への興味の基礎は、「不思議」を身近に感じることで思うので、子供にとっての真っ暗闇体験は特に貴重だとも思う。



サザンクロス切手  
クリスマスツリーの上に、  
南十字星が輝くオーストラリア  
の素敵な切手。  
オーストラリアは、国旗の右半分  
にも南十字星が入っている。

### 南十字星

南の島に行ったら、やっぱり南十字星を探したい。ところが、たくさんの星の中から南十字星を見つけるのは、意外に難しい。南十字星は、星座88個の中で最も小さい星座なので、始めて見たときには、こんなに小さいのか、とも思うし、見ようによっては、どれもが十字に見えてしまいそうな星の中から探すのは結構、難しい。その上、近くには、“にせ十字”と呼ばれるやや大きな十字や、斜めになったダイヤモンドクロスという“ひっかけ”もある。

にせ十字や、ダイヤモンドクロスにひっかかって、にせものを見ないためのコツは、下記URLへ。  
<http://www.excite.co.jp/News/bit/00091131427538.html>

### 星が導く

南十字星は、大航海時代に喜望峰を回って太平洋を航海する船乗りにも、進む方向を知らせる重要な星。

そして、もっと古い時代にも、方向を示す重要な星「ベツレヘムの星」があった。それは、クリスマスの夜、ベツレヘムの馬小屋で生まれたイエスの元へ、羊飼いたちを導いた星。また、東方の3人の博士を馬小屋へ導いた星ともされる。

マタイによる福音書 第2章9~11

前にのぼるのを見たその星が先に立って、子どものおいでになる所の上にとどまった。星をみて大いによるこんだかれらは、その家にはいって、子どもが母の MARIA といっしょにおいでになるのを見た。そこでかれらは平れ伏して礼拝し、宝箱を開いて、黄金と乳香と没薬とのみやげものを献上した。



### Hokule'a (ホクレア)

星を頼りに古来の航海術で航行するハワイのカヌー“ホクレア”。このカヌーは、植民地の独立運動や公民権運動が起こった60~70年代に「ハワイアン・ルネッサンス」というハワイ先住民族の誇りを回復する運動をベースに作られたカヌーで、羅針盤のない時代に太平洋の島々を行き来していたポリネシアの航海術を復活させ、独自の文化を復権させるために作られた。ホクレアとは、タヒチからハワイを目指すときに最終目標とした星「牛飼座のアルクツルス」(ハワイ語でホクレア、意味は喜びの星)からの命名。

76年にマイクロネシアの航海士の助けを借りてハワイ-タヒチ間を往復して以来、92年ラロトンガ往復など、99年までにポリネシア・トライアングル海域を古代の航海術で踏破した。



“using the stars in the sky to navigate their canoes”  
by Polynesian Voyaging Society

このホクレアが、2006年に日本にやってくる予定!